

教 科	農 業	単位数	4 単 位	対 象	2 年 次	選 択 群	J 群
使用教科書	農業と環境 (実教)			副教材等		履修	必修修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>農業生物の育成について体験的、探究的な学習を通して、農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を学びます。</p>			<p>・農業生物の栽培を通して基礎的な知識や技能を習得する。 ・農業及び環境に関する学習について興味関心を高めるとともに、科学的思考力と課題解決能力を育成する。</p>			<p>・体を動かすことが好きなこと、汚れることが平気で虫などに抵抗がないことが条件です。 ・農業大学校、農学部のある大学や短大への進学を希望する生徒は履修しましょう。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 農業と環境 を学ぶ	1 農業・環境学習とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と環境のかかわり</li> <li>・生物を育てる学習や環境を調べる学習</li> <li>・農業や環境について学ぶ大切さ段階と発展</li> </ul>			
	5月	第3章 栽培と飼育 の基礎	1 作物の特性と栽培の仕組み 2 作物をとりまく環境とその管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト学習について</li> <li>・作物の一生と作物栽培</li> <li>・作物栽培と環境</li> </ul>			
	6月	第4章 栽培と飼育 のプロジェクト	1 栽培と飼育のプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏野菜や草花の栽培 (トマト、ナス、マリーゴールド、ポーチュラカなど)</li> <li>・生育調査</li> <li>・収穫、調整</li> </ul>			
	7月						
	9月	第5章 環境調査と 環境保全	1 環境調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋野菜や草花の栽培 (ダイコン、ハクサイ、パンジーなど)</li> <li>・環境調査</li> <li>・農村の環境整備</li> <li>・耕作放棄地の調査</li> </ul>			
	10月		2 環境保全と修復・再生				
	11月	第2章 私たちの暮 らした農業 ・農村	1 農業と国土・環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然生態系と農業生産</li> <li>・農業の国土、環境保全機能</li> <li>・環境と調和した農業 (循環型農業)</li> </ul>			
	12月						
	1月	第6章 学習のまと めと学校農 業クラブ活 動	2 農業・農村の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料の生産・供給の機能</li> <li>・地域活性化の原動力</li> </ul>			
	2月		1 プロジェクト学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果のまとめ</li> <li>・学校農業クラブ活動について</li> </ul>			
	3月		2 学校農業クラブ活動				
	学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜、草花を「育てること」を体験し、観察力や探究心を習得する。</li> <li>・国土保全や環境を大切にすることを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作物の栽培を通して、植物に適した環境条件・栽培条件を考える。</li> <li>・プロジェクト学習によって課題解決能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な栽培方法を習得する。</li> <li>・国土や環境保全に関する能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物を育てることを通して、農業は自然や環境との関わりが深いことを理解する。</li> </ul>			
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
		A：4割 B：3割 Bは、提出物、レポートの取組状況、出欠等	A：4割 B：3割 Bは、提出物、レポートの取組状況、出欠等	1・2・3学期の平均			
備考							

教科	農業	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	N 群	
使用教科書				副教材等			履修	必修修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>農業の総合的な技術を体験的に学習する科目で、農業の各科目と関連させて学習する共通的な科目です。果樹、園芸、食品加工の3部門を体験的に学習します。2時間続きで授業がある日は、専攻別の実習を行い、1時間のみの方は、各部門をローテーションして実習を行います。</p>			<p>・農業の各分野を体験的に学習することで、総合的な技術が身に付く。 ・農業の経営と管理について理解を深めることができる。 ・管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度が身に付く。</p>			<p>・2年次に農業科目を1科目以上履修しておく必要があります。 ・農業自営や、農学系への進学を考えている人に適しています。 ・施設、設備の関係上、30名が上限となります。</p>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション 班分け（専攻別）</li> <li>・専攻別実習（2時間授業の日） 3班のローテーション実習（1時間ずつの授業の日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹：清美タゴノル、サンフルーツ、ニューサマーオレンジ収穫 温州ミカン、晩柑類摘果</li> <li>・園芸：（草花）ポトチユカ、サルビア、インパチェンス等の栽培管理 鉢物管理、観葉植物の繁殖 （野菜）夏野菜（メロン、スイカ、トマト、ナス等）の栽培管理</li> <li>・加工：ジャム類、酸乳飲料製造</li> </ul>				
	5月							
	6月							
	7月							
	9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻別実習（2時間授業の日） 3班のローテーション実習（1時間ずつの授業の日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹：仕上げ摘果、温州ミカン収穫</li> <li>・園芸：（草花）ハンジ苗栽培管理、シクラメン、ポインセチア等の鉢物管理 （野菜）秋野菜、タネ蒔き苗、ダイコン栽培管理</li> <li>・加工：クッキー、ジャム類の製造</li> </ul>				
	10月							
	11月							
	12月							
	1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻別実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹：伊予柑収穫</li> <li>・園芸：（草花）用土作り、鉢物管理、ポトチユカ挿し芽 （野菜）ホウレンソウ、育苗床準備</li> <li>・加工：ジャム類の製造</li> </ul>				
	2月							
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 実習を行う場合は、準備物、作業内容を確認しておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、安全に実験・実習ができるように努めましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその間に解決するように心がけましょう。</p>						
評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の技術や知識に関心をもち、積極的に授業に参加する。</li> <li>・実習、実習に意欲的な態度で臨む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営や管理の改善に必要な管理能力、企画力やコミュニケーション能力が身に付く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい手順や方法で実験、実習を行う。</li> <li>・使用機具を安全に、正しく使用する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業各分野の実際的、体験的な学習を通して、各分野の体系化、総合化された技術が身に付く。</li> </ul>	
評価規準・評価方法	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>実技・技能：3割 B：7割（関心・意欲4割、記録2割、出欠1割）</p>		<p>実技・技能：3割 B：7割（関心・意欲4割、記録2割、出欠1割）</p>		<p>1学期：2学期：3学期 ＝2：2：1の割合で評価する。</p>	
備考								

教科	農業	単位数	4単位	対象	2年次	選択群	K群					
使用教科書	野菜(実教出版)			副教材等			履修	必修修・ <b>選択</b>				
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路					
野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を学びます。また野菜の特性や栽培に適した環境について理解し、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付けます。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマトを苗から収穫するまで栽培し栽培の知識や技術を身に付ける。</li> <li>・野菜の生理や生態、栽培環境の知識を身に付ける。</li> <li>・苗の生産技術について、その知識や技術を身に付ける。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次・3年次の継続履修はできません。</li> <li>・体を動かすことが好きなこと、汚れることが平気で蒸しなどの抵抗がないことが条件です。</li> <li>・夏の40℃近いハウスでの実習や冬の寒い時の外での実習に耐えられることが条件です。</li> </ul>					
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容								
	4月	第1章 農業生産の 役割と動向	1 野菜とは	1 野菜の種類と特徴	2 野菜の消費	3 野菜の生産と供給	4 野菜の安全性					
	5月	第4章 果実を利用 する野菜の栽 培	1 トマト	1 定植前の準備(播種・育苗管理・畝立て)	2 定植	3 芽かき	4 受粉					
	6月			5 摘心	6 収量予想	7 水管理						
	7月			8 病虫害防除	9 トマトの収穫・収量調査	10 品質調査						
	9月	第2章 野菜の生育 特性と栽培 環境の調節 技術	1 野菜の生育と生理	1 野菜の生育	2 種子と発芽	3 茎と葉の成長	4 光合成の仕組みと物質の生産	5 根の発達と肥大	6 葉菜類の花芽分化と抽だい	7 果菜類の花芽分化と果実の発育	8 休眠	
	10月			2 野菜の栽培環境と生育調節	1 光環境とその調節	2 温度環境とその調節	3 風・ガス環境とその調節	4 地下部の環境とその調節				
	11月											
	12月											
	1月	第3章 野菜の育苗	1 育苗の目的と方法 2 育苗技術の実際と応用	1 育苗の意義と良苗の条件	2 育苗・苗生産の歴史と現状	3 野菜苗の育苗方法	1 育苗培地の種類と作成方法	2 播種および個々の育苗管理技術	3 接ぎ木苗技術	4 セル成型苗とその利用	5 栄養系苗生産とバイオテクノロジー	6 企業による苗生産・苗販売
	2月											
	3月											
学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>											
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解								
	・野菜の栽培について興味関心を持ち、播種から収穫までの栽培プロジェクトに主体的に取り組み、農業生産の育成を探究しようとしている。	・野菜の品種と特性、栽培環境の要素、管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を適切に表現している。	・野菜栽培の基礎的な技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	・野菜栽培の基礎的な知識を身に付け、栽培環境と関連付けて理解している。								
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末								
	A：3割 実習点：4割 B：3割とする。実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等。Bは授業態度、課題、ノート整理等。	A：3割 実習点：4割 B：3割とする。実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等。Bは授業態度、課題、ノート整理等。	1・2・3学期の平均									
備考												

教科	農業	単位数	3単位	対象	2年次	選択群	L群	
使用教科書	果樹(実教)			副教材等			履修	必修修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
果樹についての生理・生態および栽培に必要な知識と新しい栽培技術を座学、実習を通して学習します。			<ul style="list-style-type: none"> <li>果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得する。</li> <li>果樹の特性や栽培に適した環境を理解する。</li> <li>品質と生産性の向上を図る能力や態度が身に付く。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜、草花とともに農業科目の中で基礎となる科目です。</li> <li>農業後継者や、農業大学校進学希望者は、履修することを進めます。</li> </ul>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向	1 果樹の種類と果実の利用	1 果樹の種類と分類				
	5月		2 果樹栽培の動向	2 果樹の構造				
	6月	第2章 果樹の生育と栽培環境	1 果樹の生育と生理	1 果実の生産と消費の現状				
	7月		2 果樹栽培と環境	2 果実栽培の将来				
	9月	第3章 果樹の栽培管理	1 結実調整	1 果樹の生育とその一生				
	10月		2 水分管理	2 根・枝・葉の成長 3 樹体の成長と炭水化物				
	11月		3 栄養と施肥	4 花芽や葉芽の分化と発達 5 開花と結実				
	12月		4 土壌管理	1 生育と環境要因(水・栄養・土壌)				
	1月		5 病害虫の防除	1 摘果				
	2月	6 苗木の育成	2 隔年結果とその防止					
	3月	7 開園の更新	1 水分管理(土壌水分・灌水・排水)					
	1月		1 土壌管理(表面の管理・深耕と有機物・化学的性質の改良)					
2月		1 施肥の時期と方法						
3月		1 病害虫の防除						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないところは積極的に質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容は、必ず覚えましょう。また、実習後は、ノートに作業内容や使った道具、感想などを細かく記録しておきましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
	・実践的な果樹栽培の体験を通して、各生育段階の栽培に関する知識と技術を習得する。		・果樹栽培を通して農業の役割を環境と調和した、持続的な農業生産について考える。		・基本的な果樹の栽培方法を習得する。 ・実習した内容については、ノートにきちんとまとめる。		・果樹の生理・生態的な特性や栽培環境及びそれらと生育の相互関係を理解する。	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 A：5割 B：4割 B：1割 Bは、授業態度、ノート提出等		第3学期 A：5割 B：4割 B：1割 Bは、授業態度、ノート提出等		年度末 1・2・3学期の平均	
備考								

教 科	農 業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	U群	
使用教科書	果樹（実教）			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
柑橘（温州ミカン、デコポン、清見）の新しい栽培技術と経営に必要な知識を座学、実習を通して学習します。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・柑橘の栽培と経営に必要な知識と技術を習得する。</li> <li>・柑橘の特性や栽培に適した環境を理解する。</li> <li>・品質と生産性の向上を図る能力や態度を育てる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業後継者や、農業大学校進学希望者は、履修することを勧めます。</li> </ul>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第4章 カンキツ類	1 栽培上の特性と品種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培の現状と特性</li> <li>・品種の特性と選び方</li> <li>・日向夏や甘夏の収穫実習</li> </ul>				
	5月		2 生育のすがたと栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育のすがた</li> <li>・栄養成長と生殖成長</li> </ul>				
	6月		3 栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌管理</li> <li>・施肥</li> <li>・摘果</li> </ul>				
	7月							
	9月	第12章 高校生による実践活動	4 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫とその防除</li> <li>・生理障害とその対策</li> <li>・病害虫とその防除、生理障害とその対策</li> <li>・収穫実習</li> <li>・選別・出荷</li> </ul>				
	10月							
	11月		3 栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕立て方および選定</li> <li>・園地の改埤</li> <li>・経営の分析と改善</li> </ul>				
	12月		5 経営の特性と改善					
	1月	第12章 高校生による実践活動	1 カンキツ類の生産と加工・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動実践の紹介</li> </ul>				
	2月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題学習</li> </ul>				
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないところは積極的に質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容は、必ず覚えましょう。また、実習後は、ノートに作業内容や使った道具、感想などを細かく記録しておきましょう。</p>						
	評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な柑橘栽培の体験を通して、各生育段階の栽培に関する知識と技術を習得する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・柑橘栽培を通して地域農業の実態や農業の役割について考える。</li> <li>・実習内容などを記録簿やノートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な柑橘の栽培方法を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柑橘の生理・生態的な特性や栽培環境及びそれらと生育の相互関係を理解する。</li> </ul>				
<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による 観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による 観点別評価</p>		<p>第1・2学期</p> <p>A：5割 実習点：4割 B：1割</p> <p>Bは、授業態度、ノート提出等</p>	<p>第3学期</p> <p>A：5割 実習点：4割 B：1割</p> <p>Bは、提出物、ノート、出欠等</p>	<p>年度末</p> <p>1・2・3学期の平均</p>				
備考								

教科	農業	単位数	4 単位	対象	3 年次	選択群	T 群
使用教科書	草花 (実教)			副教材等		履修	必修修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
草花の栽培や経営に必要な知識と技術を習得し、草花の特性や栽培に適した環境などについて学習します。 ガーデニングやフラワーアレンジメントなど園芸デザインに関する分野も学習します。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・草花栽培に関する知識や技術を身に付ける。</li> <li>・草花の特性や栽培に適した環境について理解する。</li> <li>・ガーデニングやフラワーアレンジメントなど園芸デザインの基本的技術を身に付ける。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次、3年次の継続履修はできません。実習が好きな生徒向きの科目です。</li> <li>・農学系への進学、またはフラワーデザインやブライダル系への進路を考えている生徒に履修を勧めます。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 草花生産と消費動向	1 草花園芸の特徴	1 草花の生産と経営 2 草花の種類 (植物学的分類、園芸的分類)			
	5月		第3章 草花の特徴と栽培技術	1 草花の生育と環境	1 草花の一生 2 根の成長と養水分の吸収 3 シュートの成長と光合成		
	6月	2 品種改良と繁殖		1 草花の繁殖方法 2 種子繁殖 (種まきの方法・育苗) 3 栄養繁殖 (さし木・つぎ木・株分け)			
	7月		3 草花の生育と栽培技術	1 草花の生育と土・水・肥料			
	9月	第5章 鉢物生産	1 鉢もの生産の特色	1 経営的特色 2 栽培管理の特色			
	10月		2 鉢ものの生産資材と商品化技術	1 鉢の種類 2 用土 3 水と肥料 4 鉢ものの用途と商品化技術			
	11月		3 鉢花	1 鉢花の種類と栽培上の特性 2 シクラメン・ポインセチア・シネリリア栽培など			
	12月		4 観葉植物	1 観葉植物の種類と特性 2 サンセベリア・シェフレラ・ベンジャミン栽培など			
	1月		5 洋ラン	1 ラン科植物の特性 2 カトレア・ファレノプシス・シンビジウム栽培など			
	2月	第2章 生活と草花の利用	1 草花の多面的利用	1 草花の利用 2 ヒューマンサービスと草花			
	3月		2 園芸デザイン	1 園芸デザインと草花の装飾的特性 2 園芸デザインの基本 3 園芸デザインの実際 ブーケ・コサージュ・アレンジメントなど			
	学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことはその場で質問し、解決させましょう。</p> <p>【復習】 ノートを整理し、学習内容をきちんと記録しましょう。</p> <p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
	・草花の特性や栽培環境について興味・関心を持ち、実験・実習を通して草花栽培や利用について探求しようとしている。		・草花の栽培や、デザインなどの利用方法について思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。		・草花の栽培技術やフラワーデザインなどの利用技術の習得に努め、その技術を適切に活用している。		・草花の特性や栽培技術、栽培環境、利用技術などについての知識を身に付け、理解している。
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
			A：4割 B：3割 Bは、提出物、レポートの取組状況、出欠等		A：4割 B：3割 Bは、提出物、レポートの取組状況、出欠等		1・2・3学期の平均
備考							

教 科	農 業	単位数	3単位	対象	3年次	選択群	M群
使用教科書	農業経営（実教出版）			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を学びます。また農業経営の知識と運営、農業経営をとりまく環境、販売計画などのマーケティングの必要性を理解し、経営の改善を図る能力や態度を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の農場を利用して、生産の計画から販売までの知識や技術を身に付ける。</li> <li>経営管理の改善を図る知識や能力、態度を育てる。</li> <li>日本の農業の現状や農業の役割について考える態度を育てる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>農業後継者を目指す生徒は実際の経営に携わるので、履修することをお勧めします。</li> <li>農業に興味があり、体を動かすことが好きな生徒に勧めます。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 農業の動向 と農業経営	1 農業・農村と食料・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業農村の機能と役割</li> <li>食料と農業</li> <li>農業と環境保全</li> <li>持続的農業の進展と有機農産物</li> </ul>			
	5月		2 こんにちの農業経営				
	6月	第2章 農業経営の 組織と運営	1 農業経営の主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな農業経営</li> <li>農業経営の目標</li> <li>生産と経営の要素</li> <li>生産要素の特性と利用</li> <li>農業経営組織</li> </ul>			
	7月						
	9月		2 農業経営の運営				
	10月	第3章 農業経営と 情報	1 農業経営と情報の収集・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業経営の集团的取組</li> <li>農業法人経営</li> <li>経営者能力と管理運営</li> <li>農業経営の集約化</li> </ul>			
	11月		2 農業のマーケティング				
	12月						
	1月		3 農業経営の社会的環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業経営者のマーケティング</li> <li>農業経営にとっての地域</li> </ul>			
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 学習内容や実習の計画に従い、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容や実習の説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 自分で計画し作業をするので、作業の反省をきちんとしましょう。また、実習後は作業内容や使用した道具、感想などを細かく記録しましょう。</p>					
評価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の農業の現状を理解し、自給率、高齢化、過疎化等の農業問題に関心をもち、授業に取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>持続的農業の進展や農産物流通の学習を通して、実際の農業経営について考える態度を育てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>農業経営の診断および経営改善の方法などを習得する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>農業及び農村の機能や役割をきちんと理解する。</li> <li>日本の農業生産の現状を理解する。</li> </ul>
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による 観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>A：4割 実習点：3割 B：3割とする。</p> <p>実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等</p> <p>Bは授業態度、課題、ノート整理等。</p>		<p>A：4割 実習点：3割 B：3割とする。</p> <p>実習点は、服装、授業態度、実習記録、出席率等。Bは授業態度、課題、ノート整理等。</p>		1・2・3学期の平均	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>座学ばかりではなく農場実習などを交えて、農業を考えていく。</li> </ul>						

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P②群			
使用教科書	農業機械（農文協）			副教材等		履修	必修修・ <b>選択</b>			
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路				
<p>農業機械の運転操作の実習を通して、機械の構造や安全運転に関する知識や技術を学びます。                  実習を通して機械の構造と作業上の特性を理解し、農業機械の効率的な利益を図る能力と態度を身に付けます。</p>			<p>・農業機械の構造や特性を理解し、作業における安全確保に必要な知識、技能を身に付ける。                  ・安全な運転操作や合理的な利用に必要な知識、技能を習得する。</p>			<p>・特に制限はありませんが、農業機械に興味関心のある生徒に適しています。</p>				
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容						
	4月	第1章 農業と農業機械	1 人間生活と農業機械化	1 人間生活と農業機械	2 農業機械の利用と種類 3 農業機械化の意義と課題 1 安全作業のための基本					
	5月		2 農業機械と安全作業							
	6月	第3章 原動機の構造と整備	1 内燃機関	1 内燃機関とその種類	2 4サイクルガソリン機関 3 2サイクルガソリン機関 4 ディーゼル機関 5 分解・組立（実習）					
	7月			2 4サイクルガソリン機関						
	9月	第2章 トラクタの構造と操作	1 トラクタの構造と整備	1 トラクタの構造と機能				2 トラクタの点検整備 1 トラクタの操作と運航 2 トラクタの安全作業		
	10月		2 トラクタの操作と安全作業							
	11月	第4章 作業機械の構造と利用	1 耕耘整地用機械 2 防除用機械	1 管理機				1 動力噴霧器 2 スピードスプレーヤ		
	12月			1 動力噴霧器						
	1月	第5章 農業機械の利用と機械化体系	1 農業機械の効率的利用	1 作業改善と農業機械の役割	2 機械導入の考え方と手順					
	2月									
	3月									
	学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。                  【授業】 説明をよく聞き、実習などでは安全に留意しよう。疑問点などはその時間に解決しよう。                  【復習】 その日に学習した内容はきちんと記録に残しましょう。</p>								
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解			
	<p>・農業機械に関心をもち、機械の構造や作業上の特性を理解する。                  ・安全に気を付け積極的に授業に参加する。</p>		<p>・農業機械の特性を理解し、効率的な農作業への改善に努める態度を習得する。</p>		<p>・安全な運転操作や合理的な利用に必要な知識・技能を習得する。</p>		<p>・トラクタや各種作業機の機能や運転操作及びそれに必要な構造などを理解し、農業機械の効率的な知識の定着を図る。</p>			
	<p>評価方法                  ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。                  A：主に考査による                  B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>第1・2学期                  A：4割 B：4割                  B：2割                  Bは、提出物、実習や授業の取組状況、出欠等</p>		<p>第3学期                  A：4割 B：4割                  B：2割                  Bは、提出物、実習や授業の取組状況、出欠等</p>		<p>年度末                  1学期：2学期：3学期                  2：2：1の比率で評価する。</p>			
備考										

教科	農業	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	P 群
使用教科書	食品製造 (実教)			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
加工食品の製造実習と、観察、実験、調査、記録などの学習活動を通して、原材料と加工食品の特性及び食品加工の原理を理解し、食品の加工と貯蔵に関する知識と技術を習得します。			<ul style="list-style-type: none"> <li>食品製造に必要な知識と技術が身に付く。</li> <li>食品の特性と加工の原理が理解できる。</li> <li>食品の品質と生産性の向上を図る能力が身に付く。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>特に条件はありませんが、調理・製菓関係への就職、進学を考えている人に適しています。</li> <li>施設、設備の関係上、20名が上限となります。</li> <li>衛生管理上専用の実習服を購入する必要があります。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 食品製造の意義と動向	1 食品製造の意義	1 食品製造と、その目的 2 食生活と食品製造			
	5月	第5章 食品加工と食品衛生	1 食品と食品衛生 2 食中毒	1 食品衛生とは 1 食中毒とは 2 食中毒の分類			
	6月	第6章 農産物の加工	1 果実類の加工	1 ジャム類 (製造実習)			
	7月	第7章 畜産物の加工	1 牛乳の加工	1 牛乳の成分と加工特性 2 発酵乳・乳酸菌飲料 (製造実習) 3 アイスクリーム (製造実習)			
	9月	第2章 食品製造の基礎	1 食品の分類	1 食品の分類法 2 植物性食品・動物性食品 3 加工食品			
	10月	第3章 食品の変質と貯蔵	1 食品の変質と、その原因	1 生物的要因による変質 2 物理的・化学的要因による変質			
	11月	第6章 農産物の加工	2 食品の貯蔵法 2 穀類の加工	1 各種方法による貯蔵 1 菓子類 (製造実習) 2 めん類 (製造実習) 3 パン (製造実習)			
	12月		3 野菜類の加工	1 漬け物 (製造実習)			
	1月	第4章 食品の包装と表示	1 食品の包装 2 加工食品の表示制度	1 食品包装の目的と種類 2 食品の包装形態と包装技術 1 食品表示の意義と制度			
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 製造実習を行う場合は、準備物、作業工程を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、安全に実験・実習ができるように努めましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品製造の技術や知識に関心をもち、積極的に授業に参加する。</li> <li>製造実習に意欲的な態度で臨む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決的な学習を通して、各種の加工食品の製造への応用を考える。</li> <li>食品産業が、豊かな食生活を提供する役割を担っていることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい製造手順や方法で製造実習を行う。</li> <li>製造機器を安全に、正しく使用する。</li> <li>衛生管理の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の特性及び、食品加工の原理を理解し、知識として定着する。</li> <li>食品の加工と貯蔵に関する技術が身に付く。</li> </ul>			
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
		A：4割 実技点：4割 B：2割 Bは、提出物、記録の取組状況、出欠等	A：4割 実技点：4割 B：2割 Bは、提出物、記録の取組状況、出欠等	1学期：2学期：3学期 = 2：2：1の割合で評価する。			
備考							

教科	農業	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	H群	
使用教科書	植物バイオテクノロジー (実教)			副教材等			履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
植物に関するバイオテクノロジーの知識や技術を身に付け、農業の各分野で利用できる能力や態度を育てます。組織培養を中心にバイオテックの基礎である無菌操作や培地の作成・組織片の培養・培養植物の育成についても学習します。				<ul style="list-style-type: none"> <li>植物バイオテクノロジーに関する基礎的な技術や知識を習得する。</li> <li>組織培養技術を利用する実践的な態度を身に付ける。</li> <li>バイオテック技術を農業の各分野で応用する能力や態度を身に付ける。</li> <li>濃度計算と薬品の調製ができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>四年制大学農学部に進学を希望している生徒、またはバイオテックに興味がある生徒に向いています。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第1章 植物バイオテクノロジーの意義と役割	1 バイオテクノロジーとは何だろう	1 生物の機能とバイオテクノロジー 2 バイオテクノロジーとは (組織培養・花粉培養・胚培養・細胞融合・遺伝子組み換え)				
	5月		1 組織培養とは何だろう 2 組織培養の方法	1 組織培養とは 2 組織培養の目的 1 組織培養の手順 2 培地の組成と調整 (実習) 3 無菌操作 (実習) 4 順化				
	6月	第3章 植物組織培養の基礎	3 施設と機器・器具	1 施設 2 機器・器具				
	7月		1 茎頂培養	1 茎頂培養				
	9月	第4章 組織培養の実際	2 ラン類の播種と培養	1 コチョウランの無菌播種				
	10月		3 組織片の培養	1 組織片培養とは 2 組織片培養実習				
	11月		4 培養組織の生育と環境	1 培養組織の成長と分化 (1) カルスの形成 (2) 不定芽の分化 (3) 不定胚の分化				
	12月			2 茎頂組織の成長とシュートの増殖 3 順化				
	1月	第7章 植物バイオテクノロジーの成果と展望	1 農業における植物バイオテクノロジーの成果	1 植物バイオテクノロジーの成果 2 実用化への課題とこれからの展望				
	2月		2 植物バイオテクノロジーの展開	1 食糧生産に対する貢献				
	3月	第8章 植物バイオテクノロジーの実践	1 植物バイオテクノロジーの実践活動	1 実践活動の紹介				
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読み授業内容を把握しておきましょう。実習等では目的・作業内容・手順等を理解しておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、積極的に参加しましょう。実習などでは説明をよく聞いて、間違いのないように気をつけましょう。</p> <p>【復習】 ノートや記録簿の整理に努め、疑問点がないか再確認しましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
	・バイオテックに関心をもち、バイオテックの知識や技術の習得に努め、積極的に授業に参加する。	・バイオテック実習を通して農業分野への応用を考える。 ・座学や実習を通してバイオテックの役割を考える。	・無菌操作や培地の作製、器具や機器の取り扱いなどバイオテックの基礎基本を身に付ける。	・バイオテックの基礎基本を身に付け、農業の各分野で応用する能力や態度を身に付ける。				
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による 観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
		A：3割 実習点：4割 B：3割 Bは、提出物、ノート、出欠等	A：3割 実習点：4割 B：3割 Bは、提出物、ノート、出欠等	1学期：2学期：3学期 = 2：2：1の割合で評定する。				
備考								

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R①群	
使用教科書	食品流通 (実教)			副教材等			履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
農産物を主とする食品の流通について学習し地域農業について考えます。また、農産物の特性を考えた流通や食品の保管に関する知識や技術を習得し、食品流通の重要性を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を身に付ける。</li> <li>食品の特性と流通構造を理解する。</li> <li>食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を身に付ける。</li> </ul>			流通関係、特に食品の流通・販売の仕事に就職する生徒に勧めます。		
学年計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 現代社会と食品流通	1 流通の始まりと発展	1 私たちの生活と流通 2 自給自足、物々交換から市へ 3 近代的な流通の発展				
	5月		2 流通の働き	1 生産と消費のへだたり 2 物流、商流、情報流通 3 流通と費用 4 流通を支えるしくみ				
	6月		3 食品流通の役割	1 生活に欠かせない食品流通 2 食品流通に求められるもの				
	7月	第2章 経済活動と食料	1 経済発展と食料消費	1 経済システムの基本 2 所得水準と食料消費				
	9月		2 世界の食料事情	1 増加する人口と食料生産 2 世界の食料需給 輸出する国、輸入する国 3 グローバル化する食品流通をめぐる諸問題				
	10月	第3章 食品流通のしくみと働き	3 日本の食生活、食料需給と自給率	1 日本の食生活 2 日本の食料需給と農産品貿易 3 日本の食料自給率				
	11月		4 私たちとりまくフードシステム	1 フードシステムのしくみ 2 フードシステムを構成する産業				
	12月		1 食品流通の特徴	1 商品の特性 2 生産の特徴 3 需要の特徴				
	1月	第7章 食品マーケティング	2 食品流通のしくみ	1 流通経路 2 流通の担い手 (卸売業者)				
	2月		3 価格の形成と流通経費	3 流通の担い手 (小売業者)				
	3月		1 マーケティングとは何か	1 価格の決定 2 販売価格の形成				
	1月		2 マーケティングの発展	1 マーケティングのはじまり 2 供給過剰とマーケティング 3 広がるマーケティングの意味				
2月		3 マーケティング戦略の手法	1 マーケティング管理と4P 2 製品計画とライフサイクル 3 消費開発の実際					
3月								
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読み授業内容を把握しておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き内容の理解に努めましょう。疑問点などはその場で解決しましょう。</p> <p>【復習】 ノートをきちんと整理し疑問点がないか、今一度確認しましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
	農産物を主とする食品の流通について興味・関心を持ち、食品の流通と管理の合理化について探求しようとする。		農産物の特性にマッチした流通や保管に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現する。		農産物の特性を考えた流通や農産物の保管に関する資料や情報を収集し、適切に選択して活用する。		食品の特性と流通構造に関する知識や技術を習得し、食品流通と管理の合理化について理解する。	
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		A：7割 B：3割 Bは、提出物、ノート、出欠等		A：7割 B：3割 Bは、提出物、ノート、出欠等		1・2・3学期の平均		
備考								

教 科	農 業	単位数	2 単位	対象	3 年次	選択群	S②群	
使用教科書	環境緑化材料（電機大）			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
環境緑化のための植物の育成や花壇構成に使用する材料について必要な知識と技術を学びます。また、環境緑化材料の特性を学ぶとともに、適切に取り扱い、その配置をデザインしたり活用したりする能力と態度を養います。			<ul style="list-style-type: none"> <li>環境緑化材料の種類と特徴について基礎的な知識を理解し、その利用方法を工夫する態度や技術を身に付ける。</li> <li>花壇や、コンテナガーデンをデザインし、実際に作品制作を行うことで技術の定着を図る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>観葉植物や室内緑化インテリア花壇レイアウト、造園デザインに興味がある生徒に勧めます。</li> <li>農学系への進学、造園業界への進路を考えている生徒に勧めます。</li> </ul>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第1章 環境緑化材料	1 環境緑化材料の特色と役割	1 環境緑化材料の特色 2 環境緑化材料の役割				
	5月	第2章 植物材料	1 緑化材料としての草花	1 草花の種類 2 草花の育苗方法				
	6月		2 造園用草花の利用	1 コンテナ栽培 2 ハンギングバスケット栽培				
	7月	第2章 植物材料	3 地被植物の種類と特性	1 日本芝と西洋芝の特徴 2 草本性地被植物の種類と特徴				
	9月		4 観葉植物の栽培と利用	1 観葉植物の種類 2 観葉植物の繁殖方法 3 観葉植物の能力と利用方法 4 室内レイアウトの実際				
	10月		第3章 その他の材料	1 箱庭製作	1 石材、木材、竹材 2 箱庭のデザインとレイアウト			
	11月	第3章 その他の材料		1 箱庭製作	3 箱庭製作実習 4 相互評価と講評			
	12月		第3章 その他の材料					
	1月							
	2月							
		3月						
学習方法	【予習】	学習内容を把握し、準備物等の確認をしておきましょう。						
	【授業】	授業の内容や実習の説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことは早めに質問しましょう。						
	【復習】	その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。						
評価の観点・評価基準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
	・環境緑化のための植物の育成や、それを利用する方法について興味・関心を持ち、実習や作品制作に積極的に取組もうとしている。	・環境緑化のための植物の栽培や利用方法について思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、創意・工夫した作品制作に結びつけている。	・環境緑化材料の育成や利用技術、花壇デザインや箱庭製作に関する技術の習得に努め、適切に活用している。	・環境緑化材料の種類や特徴、その育成方法や利用方法について理解している。				
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
		A：4割 実習点：3割 B：3割 実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等 Bは、授業態度、課題、ノート整理等	A：4割 実習点：3割 B：3割 実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等 Bは、授業態度、課題、ノート整理等	1学期：2学期：3学期＝2：2：1の比率で評価				
備考								

教 科	農 業	単位数	2 単位	対象	3 年次	選択群	S②群
使用教科書	測量 (実教)			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
各種事業で用いる測量の種類や動向、測量の役割や意義について学習する。また、平板測量の実習を通して、測量方法や測定値の処理、地図や図面の作成を学習する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平板測量の方法や器具の構造・点検法に関する知識や技術を習得し、平板測量の特徴や精度及び誤差の処理について理解できる。</li> <li>・高低差の測量に必要な知識、技術を習得する。</li> <li>・測定値の処理や作図の意味について理解できる。</li> </ul>			・特に制限はありませんが、土木建設関係の就職を希望している生徒	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	測量を学ぶ	1 測量の意義	1 何のために測量を学ぶのか 2 測量はどのようにして行われるのか			
	5月	第1章 距離測量	1 距離測量用器具 2 距離の測定	1 距離測量で使用する器具 1 距離・平坦地や傾斜地での距離の測定			
	6月	第4章 平板測量	1 平板測量の器具 2 平板の据え付け 3 平板測量の方法	1 平板測器 2 測距離器具 3 その他の用具 1 整準 2 致心 3 定位 4 平板のすえつけ (実習) 1 距離測量 2 道線法 3 放射法 4 交会法			
	7月						
	9月		4 平板測量の誤差 5 平板測量	1 器械誤差 2 標定誤差 3 製図上の誤差 4 誤差の修正 1 平板測量 (実習)			
	10月			1 図面の製図 (実習) 2 レタリング			
	11月	第7章 面積および 体積	1 面積の計算	1 三斜法 2 三辺法 3 オフセット法			
	12月						
	1月	第3章 水準測量	1 水準測量 2 直接水準測量の器械・器具 3 水準測量の方法	1 水準面 2 基準面 3 標高および水準点 1 器械・器具 1 高低測量 (実習)			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 資料等を参考に授業内容を把握しておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、ノートはきちんと取りましょう。分からないことや疑問に思うことはその場で解決しましょう。</p> <p>【復習】 記録の整理をきちんとし疑問点がないか、今一度確認しましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
	・測量の種類や動向を学習し、測量の役割や測定値の処理について理解する。 ・測量とその技術に関心をもち授業に参加する。		・測量実習を通して測量の方法や測量の意義について考える。 ・測量結果を利用して農業経営の改善を図ろうとする態度を育成する。		・平板測量や水準測量の方法を理解し、測量作業や数値の処理や製図が正確にできる。		・測量の種類、目的、使用機器、数値の処理、製図などの基本的な知識や技術を育む。
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 A：4割 実習点：3割 B：3割 Bは、授業態度、課題、ノート整理等		第3学期 A：4割 実習点：3割 B：3割 Bは、授業態度、課題、ノート整理等		年度末 1学期：2学期：3学期＝2：2：1の比率で評価
備考							

教 科	農 業	単位数	2 単位	対象	3 年次	選択群	R② 群
使用教科書	生物活用（農文協）			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
園芸作物の活用に必要な知識と技術を学びます。また、園芸作物の活用法や特質を学ぶとともに、生活の質の向上や改善を図る能力と態度を養います。			<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜や草花を小規模な農地で家庭菜園的な栽培を実施し、その利用方法を工夫する態度や技術を身に付ける。</li> <li>フラワーデザインに関する基礎知識を身に付け、作品制作をしながらその技術や利用方法を身に付ける。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>草花や野菜の栽培、それらを利用した装飾に興味がある生徒に勧めます。</li> <li>フラワーデザインやブライダル系、理美容に興味がある生徒に勧めます。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4 月	第1章 園芸の活用 と効果	1 園芸の効果 2 園芸の効果を生かす活動場面	1 園芸のもつ多様な効果 1 多様な園芸活用の場面と取組み 2 園芸の療法的活用			
	5 月	第3章 野菜・ハーブ の栽培と活用	1 私たちの暮らしと野菜の活用	1 野菜づくりの楽しみ 2 野菜の栄養と機能性 3 広がる野菜の活用			
	6 月		2 野菜の栽培計画と管理	1 野菜の種類・特性と栽培 2 春から夏の野菜栽培			
	7 月	第2章 草花の栽培 と活用	1 草花の特性と活用のポイント 2 花壇の活用と管理	1 生育の特性と活用のポイント 2 草花の利用上の特性			
	9 月			3 フラワーデザイン	1 花壇のデザイン 2 コンテナガーデンとハンギングバスケット		
	10 月		1 フラワーデザインとその活用 2 アレンジメントの基本とバリエーション 3 フラワーアレンジメントの実際 4 ブーケとコサージュとそのつくり方				
	11 月		5 ハイドロカルチャー 6 押し花 7 作品の評価				
	12 月	1 月 2 月 3 月	3 フラワーデザイン				
	1 月						
	2 月						
	3 月						
	学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 授業の内容や実習の説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>園芸作物の栽培や、それを利用する方法について興味・関心を持ち、実習や作品製作に積極的に取り組もうとしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>園芸作物の栽培や利用方法について思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、創意・工夫した作品制作に結びつけている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜や草花の基本的な栽培技術や、フラワーデザインに関する技術の習得に努め、適切に活用している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜や草花の種類や特徴その栽培方法や利用方法について理解している。</li> <li>園芸療法の知識や技術について理解している。</li> </ul>
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
	A：4割 実習点：3割 B：3割 実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等 Bは、授業態度、課題、ノート整理等		A：4割 実習点：3割 B：3割 実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等 Bは、授業態度、課題、ノート整理等		A：4割 実習点：3割 B：3割 実習点は、服装、実習態度、実習記録、出席率等 Bは、授業態度、課題、ノート整理等		1学期：2学期：3学期＝2：2：1の比率で評価
備考							

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R②群	
使用教科書	グリーンライフ (実教出版)			副教材等			履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
農業や農村のもつ多面的な機能を活用した交流、余暇活動の展開とそれを導入した経営について学習する科目で、主としてヒューマンサービスに関連する分野に属する科目です。			<ul style="list-style-type: none"> <li>交流、余暇活動の展開に必要な知識と技術が身に付く。</li> <li>農業や農村のもつ多面的な機能と対人サービスの特性が理解できる。</li> <li>交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度が身に付く。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>特に条件はありませんが、農業自営、農学系への進学を考えている人に適しています。</li> <li>施設、設備の関係上、10名が上限となります。</li> </ul>		
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 グリーンライフとは	1 人間生活とグリーンライフ	1 ながく自然のなかで暮らしてきた人間	2 私たちの暮らす社会 3 グリーンライフとは			
	5月		2 農山村と都市の現状と変化	1 農山村の現状 2 都市の現状と変化	3 農山村と都市の連携			
	6月	第2章 農林業・農山村の魅力と地域づくり	3 地域社会の変化と社会的起業活動	1 農山村における方策 2 都市における方策				
	7月		1 農林業・農山村の魅力	1 農林業の魅力 2 農山村の魅力	3 新しい魅力づくり			
			2 身近な地域資源の発見と活用	1 地域資源の発見 2 地域資源の保全と活用	3 地域での暮らしと愛着			
	9月	第3章 グリーンライフ活動	3 農山村の資源と景観の特質	1 農山村の環境 2 農山村の景観	3 農山村の文化と人			
	10月		1 都市と農山村の共生・対流にみるグリーンライフ活動	1 都市と農山村の共生・対流	2 都市と農山村の共生・対流におけるグリーン・ツーリズム			
	11月		2 グリーン・ツーリズムの取り組み	1 グリーン・ツーリズムの特徴	2 グリーン・ツーリズムの効果と課題			
	12月		3 農林業体験	1 農林業体験とは 2 農林業体験の事例	3 農林業体験の実施			
	1月	第4章 グリーンライフ活動の実践	7 産地直送・産地直結と通信販売	1 産地直送・産地直結とは	2 産地直送・産地直結の運営			
	2月		9 農家民宿	1 農家民宿とは 2 世界や日本における事例	3 農家民宿の運営			
3月	2 対人サービスのマナーと安全管理		1 対人サービスのマナー 2 安全管理					
		3 グリーンライフ活動のプログラムの企画と実践	1 プログラム実施の目的 2 プログラムの計画立案	3 プログラムの実行 4 プログラムの評価				
学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
	・自然環境や農業・農村がもつ機能の活用に関する知識・技術に関心をもち、積極的に授業に参加する。	・農業、農村の特性の活用を中心としたヒューマンサービス関連分野における自らの職業生活について考える。	・栽培、加工や自然観察の援助及び郷土芸能の紹介などに関する技術、農園や景観の管理と活用及びグリーン・ツーリズムなどの経営に関する技術を習得する。	・農業や農村のもつ多面的な機能と対人サービスの特性を理解し、知識として定着する。				
備考	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
	※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	A：6割 実技点：2割 B：2割 Bは、提出物、記録の取組状況、出欠等	A：6割 実技点：2割 B：2割 Bは、提出物、記録の取組状況、出欠等	1学期：2学期：3学期＝2：2：1の割合で評価する。				

教 科	農 業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P①群	
使用教科書	食育のすすめ (マガジンハウス)			副教材等			履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
安全な農産物を栽培するのに必要な知識と技術を身に付けます。 健康で豊かな食生活を営む能力と態度を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、野菜栽培の基礎を身に付けます。</li> <li>・食の大切さを理解し、子どもたちに食育を伝える知識を身に付けます。</li> <li>・食の検定3級合格を目指します。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の検定は、農業と家庭科が合体したような内容です。将来調理関係、保育関係を考えている人にも役に立つと思います。</li> <li>・実習もあるため、農作業に抵抗なく取り組めることが条件です。</li> </ul>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	子供の健康増進	旬の食材 栄養の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育基本法制定の意義</li> <li>・五大栄養素</li> </ul>				
	5月		食事と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の重要性</li> <li>・インスタント食品の注意点</li> <li>・食の欧米化</li> </ul>				
	6月	日本の伝統的な家庭料理	調味料 味覚 日本食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポン酢、だし、うま味の相乗効果</li> <li>・沖縄料理</li> <li>・味噌汁、魚介類</li> <li>・一汁三菜</li> </ul>				
	7月							
	9月	大人の食生活と健康管理	生活習慣病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物性食品の機能</li> <li>・機能性成分</li> </ul>				
	10月		食中毒対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の安全性</li> <li>・殺菌方法</li> <li>・寄生虫感染対策</li> <li>・食品の保管方法</li> <li>・箸の使い方</li> <li>・衣食住</li> <li>・有機農法</li> <li>・フードマイレージ</li> <li>・環境への配慮</li> </ul>				
	11月	食のあり方を考え直そう	生活習慣と礼儀作法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧増産技術</li> <li>・6次産業化</li> </ul>				
	12月		期待される農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧増産技術</li> <li>・6次産業化</li> <li>・地産地消</li> <li>・食品廃棄物</li> </ul>				
	1月	食の歳時記	年中行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の意義と食文化</li> </ul>				
	2月							
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>						
評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の食生活の問題点や農業、食品、栄養について興味関心を持ち、授業に取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の良い食習慣や農業が果たす役割について子どもたちに伝えていく態度を育てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な食育をおこなえるよう、野菜栽培の基礎的な技術を身に付ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品、栄養、健康等の関係性について理解し、自身の食生活で応用する能力や態度を身に付ける。</li> </ul>	
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
※	上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に査査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		A：4割 実習点：3割 B：3割とする。 実習点は、服装、実習態度、出席率等。 Bは授業態度、課題、ノート整理等。		A：4割 実習点：3割 B：3割とする。 実習点は、服装、実習態度、出席率等。 Bは授業態度、課題、ノート整理等。		1・2・3学期の平均	
備考	食の検定3級の受験料として4,000円が必要です。							

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S①群
使用教科書	田園回帰 新規就農への道 (農文協)			副教材等		履修	必修修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
愛媛県、八西地区の身近な事例を通して、産地形成や消費動向をはじめとする地域農業を取り巻くあらゆる条件について理解します。特に、経済的、社会的、自然的条件の変化が相互に関係することを理解させる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本一のカンキツ産地である愛媛県、中でも八西地区の農業に関する知識が身に付く。</li> <li>・愛媛県、八西地区の現状が理解できる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に条件はありませんが、八西地域での就農を考えている人に適しています。</li> <li>・地域の農家で体験学習があります。</li> </ul>	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	第0章 イントロダクション	1 新規就農者へ	1 新規就農の体験談・失敗談 2 新規就農者の現状と課題			
	5月	第1章 新規就農ノウハウ 第2章 家族経営を引き継ぐ	1 先輩移住者より新規就農すること	1 研修から独立までのサポートの方法			
	6月		1 家族経営とは	2 家族労力によって暮らしを立てる農業			
	7月	第3章 集落営農・農業法人の職員になる 第4章 JAの部会員になる	1 集落営農組織	1 集落営農組織のメリット 2 後継者をいかに確保するか			
	9月		1 「産地=地域」の一員を育てる 2 JAの就農支援に求められるもの	1 JAの新規就農支援の先進事例 2 ブランド力が産地を救う			
	10月	第5章 女性就農・半農半を志す	1 女性就農への道	1 多様化する新規就農とそれへの支援の在り方を考える			
	11月		第6章 自伐型林業への道	1 自伐型林業の広がり	1 移住者への仕事づくりと地域への定着に向けた意識的な取組		
	12月	1 支援					
	1月	1 支援					
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
	・自分たちの住む地域に関心を持ち、積極的に授業に参加する。 ・現場実習や見学などに積極的な態度で臨む。	・地域の現状を知り、地域が抱えている課題を把握し、課題解決について考えることができる。	・現場実習において、まじめに実習に取り組み、地域の農家が持つ技術を学ぶ。	・地域の現状及び、地域農業の現状を理解し、知識として定着する。			
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に査考による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	第1・2学期 A：4割 B：3割 B：3割 Bは、提出物、レポートの取組状況、出欠等	第3学期 A：4割 B：3割 B：3割 Bは、提出物、レポートの取組状況、出欠等	年度末 1学期：2学期：3学期 2：2：1も割合で評価する。			
備考							

教科	農業	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	I群	
使用教科書	グローバルGAPガイドブック (横田コーポレーション)			副教材等			履修	必修修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
生産者にとっても消費者にとっても安心・安全な農業、環境にも優しい農業について考えていきます。 特にグローバルGAPをはじめとした認証制度についての知識を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、安心して実習に取り組める農場整備を進めていきます。</li> <li>・座学では認証制度の種類や目的、農業の最新制度について学びます。</li> <li>・グローバルGAPの認証審査合格を目指します。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来農業関係に進みたいと考えている人、食の安全に興味のある人は選択することをお勧めします。</li> <li>・実習もあるため、農作業に抵抗なく取り組めることが条件です。</li> </ul>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	農業を取り巻く問題	農業と環境の関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と地球温暖化</li> <li>・農薬のメリット、デメリット</li> <li>・養水分の流れ</li> </ul>				
	5月		食料自給率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の食生活</li> <li>・農産物の輸入量と輸出量、TPP</li> </ul>				
	6月		日本の農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業従事者の高齢化</li> <li>・農作業中の事故</li> </ul>				
	7月	安全な仕事環境 安心なものづくりに向けて	工業における取組 食品加工における取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO</li> <li>・HACCP</li> </ul>				
	9月	実習環境の改善	農業における取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルGAP</li> </ul>				
	10月		安全な農場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所の確認（斜面、段差、穴など）</li> </ul>				
	11月		安全な農薬管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬散布の注意点・農薬の保管方法</li> </ul>				
	12月		安全な農器具管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農機具の使用法・農機具の点検方法</li> </ul>				
	12月		安全な肥料管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料散布の注意点・肥料の保管方法</li> </ul>				
	1月	農業の情勢	生産物の収穫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給油時の注意点・燃料の保管方法</li> <li>・収穫時の手順の確認と注意点</li> </ul>				
	2月		消費者に安心して購入してもらうために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選別場所の安全点検・適切な選別方法</li> </ul>				
	3月		今後の課題 1年間に起きた農業の話題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の整理、来年度への引継ぎ</li> <li>・新制度、新技術等の把握</li> </ul>				
学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より安心安全な農業環境へと改善する手段について興味関心を持ち、授業に取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内に潜むリスクを予想し、未然に防ぐ手段を模索する態度を育てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作物栽培の基礎的な技術と安全な作業方法を身に付ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルGAPの農場管理規則について理解し、今後の生活に应用する能力や態度を身に付ける。</li> </ul>	
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による 観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による 観点別評価</p>		<p>A：4割 実習点：3割 B：3割とする。</p> <p>実習点は、服装、実習態度、出席率等。</p> <p>Bは授業態度、課題、ノート整理等。</p>		<p>A：4割 実習点：3割 B：3割とする。</p> <p>実習点は、服装、実習態度、出席率等。</p> <p>Bは授業態度、課題、ノート整理等。</p>		1・2・3学期の平均		
備考	夏休み等に企業へ見学に行く場合があります。							

教 科	農 業	単位数	2 単 位	対 象	3 年 次	選 択 群	S①群	
使用教科書	農の福祉力で地域が輝く（創森社）			副教材等			履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
農業の持つ福祉力とは何かを考え、新たな農の役割を探っていく授業を行います。特に福祉事業所等と連携を図り、福祉と農業の関係の取り組みに関する知識・技術を身につけます。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、農業と福祉が協力し新たな取り組みの研究を進めていきます。</li> <li>・座学では農業や福祉の現状を学び、その連携事例や新たな知識・技術を習得します。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来福祉関係に就職する人、農業関係に従事する人に、農業や福祉に興味のある人にお勧めします。</li> <li>・実習もあるため、農作業等に抵抗なく取り組めることが条件です。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	農と福祉の結びつきと可能性	農と福祉の関係と農の福祉力のとらえ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と福祉の関係</li> <li>・福祉から農への作用</li> <li>・農から福祉への作用</li> <li>・農の福祉力の定義、</li> </ul>				
	5月		農の福祉力による効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業活動のアンケート</li> <li>・障害、心身、工賃への効果</li> <li>・就労訓練・地域交流への交流</li> </ul>				
	6月	農福連携によって福祉力を高める	農のもつ福祉力の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の新たな機能の発揮、農業から農生業へ</li> <li>・グリーンケアとしての農生業、新たな事業の実施主体</li> </ul>				
	7月		農福連携によるステップアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の新たな機能の発揮、農業から農生業へ</li> <li>・グリーンケアとしての農生業、新たな事業の実施主体</li> </ul>				
	7月		農業の従事者・生産額の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携の目的と態様</li> <li>・農福連携が生み出すもの</li> <li>・農福連携の広がりや位置づけ</li> </ul>				
	9月	事例に見る農福連携の多様な展開	障がい者福祉の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の語源と意味、農福連携における福の意味</li> <li>・障害種別の障がい者、障がい者数の実態</li> </ul>				
	10月		障がい者の就労状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業割合、不就業者の就業意欲、雇用形態</li> <li>・事業所数、平均賃金と就業環境</li> </ul>				
	11月		農福連携のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者のメリット</li> <li>・農家等のメリット</li> <li>・地域のメリット</li> <li>・新たな職域と担い手の可能性</li> </ul>				
	12月		農業活動の取り組み実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者福祉事業所の取り組み</li> <li>・障がい者の取り組み分野での農業の位置づけ</li> </ul>				
	12月		国・地方自治体による農福連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産省による支援</li> <li>・厚生労働省による推進</li> <li>・両省による共同の取り組み</li> <li>・地方自治体による実施</li> </ul>				
	1月		農福連携の広がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携の事例</li> </ul>				
	2月		農福から農福+α連携へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福から農福商工連携</li> </ul>				
3月								
学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>							
評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の生産や加工と福祉活動について興味関心を持ち、授業に取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉的な観点で実習内に潜むリスクを予想し、未然に防ぐ手段を模索する態度を育てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者等の立場になり農作物栽培の基礎的な技術と安全な作業方法を身に付ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と福祉の関係について理解し、今後の農福連携に応用する能力や態度を身に付ける。</li> </ul>	
評価規準・評価方法	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による 観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による 観点別評価</p>		<p>A：4割 実習点：3割 B：3割とする。</p> <p>実習点は、服装、実習態度、出席率等。</p> <p>Bは授業態度、課題、ノート整理等。</p>		<p>A：4割 実習点：3割 B：3割とする。</p> <p>実習点は、服装、実習態度、出席率等。</p> <p>Bは授業態度、課題、ノート整理等。</p>		1・2・3学期の平均	
備考	夏休み等に企業へ見学に行く場合があります。							

